

20年1月20日	「高次脳機能障害支援ネットワーク研修会を受けて」 大山リハビリテーション病院 言語聴覚士 寺尾朋美	
平成19年度高次脳機能障害者支援関係職員研修会 20年1月24日 鳥取市	「高次脳機能障害を理解する」 広島県高次脳機能センター センター長 丸石正治 「生活の困難さと支援者に望むこと」 当事者・家族	30名
平成19年度高次脳機能障害に係る研修会 20年1月25日 米子市	「高次脳機能障害者の理解について」 広島県高次脳機能センター センター長 丸石正治	80名
平成19年度高次脳機能障害支援研究発表会 20年3月16日 倉吉市	「高次脳機能障害患者さんの現状」 鳥取大学医学部附属病院脳神経外科 教授 渡辺高志 事例発表 大山リハビリテーション病院、三朝温泉病院、高次脳機能障害者家族会、エポック翼（相談支援事業者）、障害者就業・生活支援センターしゅーと、厚和寮、言語聴覚士会、作業療法士会、医療社会事業協会	104名

【広島県】

期日・場所	内容・講師	参加者
高次脳機能障害研修会 19年10月28日 広島市	「高次脳機能障害の見方と支援普及事業について」 国立身体障害者リハビリテーションセンター更生訓練所 所長 江藤文夫 氏 「広島県における高次脳機能障害対策」 広島県高次脳機能センター センター長 丸石正治 氏 「千葉県における高次脳機能障害者への就労支援の取り組み経過と現状」 千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域連携部長 太田令子 氏	200名
高次脳機能障害地域支援センター研修会 20年3月2日 尾道市	「高次脳機能障害について」 広島県高次脳機能センター センター長 丸石正治 「高次脳機能障害のリハビリテーション」 広島県立障害者リハビリセンター作業療法士 佐々木典子 「高次脳機能障害の社会支援」 広島県高次脳機能センター コーディネーター 隅原聖子	150名
高次脳機能障害地域支援センター研修会	「高次脳機能障害について」 広島県高次脳機能センター センター長 丸石正治 「高次脳機能障害のリハビリテーション」	60名

20年3月11日 三次市	広島県障害者リハビリテーションセンター作業療法士 佐々木 「高次脳機能障害の社会支援」 広島県高次脳機能センター コーディネーター 隅原聖子	
-----------------	--	--

【山口県】

期日・場所	内容・講師	参加者
高次脳機能障害支 援研修 20年3月23日山口 市	「高次脳機能障害に関する理解」 ～診断・評価からリハビリテーションへ～ 広島県高次脳機能センター センター長 丸石正治 氏 「高次脳機能障害に関するリハビリテーション」 ・記憶障害や注意障害に関するリハビリテーション ・あなたの機関や施設でできる工夫 広島県立障害者リハビリテーションセンター 作業療法士 川原 薫 氏	440名

厚生労働科学研究費補助金（高次脳機能障害支援ネットワーク研究事業）  
（分担）平成 19 年度総括研究報告書

高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究

分担研究者 蜂須賀 研二 産業医科大学リハビリテーション医学講座・教授

研究要旨：①九州各県にそれぞれ高次脳機能障害支援ネットワークを確立させるために九州ブロック委員を選任し、行政担当者と合同でブロック会議を開催した。報告された研究成果や研修講演を基に各県で支援ネットワーク確立のための教育・啓蒙活動を行い、具体的支援活動を実施した。②北部九州に在住する高次脳機能障害者の実態を再調査し、平成 19 年 3 月の状況は平成 14 年 8 月に比して身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳を有する者、および就職・就学している者の割合が増加し、その他（何もしていない・家事）が減少しており、モデル事業および支援事業の成果と考えられた。③福岡県高次脳機能障害者の新規発症数の調査は REAS システムを利用して進行中であり平成 20 年度 9 月末まで実施する。

#### A. 研究目的

九州各県内に高次脳機能障害支援ネットワークを確立させ支援活動の質的向上をはかるとともに、モデル事業および支援事業の成果を検証し、福岡県内の高次脳機能障害者の新規発症を調査（平成 20 年度も継続）する。

#### B. 研究方法

九州各県を代表するブロック委員と行政担当者と合同でブロック会議を開催し、各県の行政担当者とブロック委員が必要な情報を共有してそれぞれの地区における高次脳機能障害支援ネットワークに関する情報を交換し、その確立を支援する。

北部九州に在住する高次脳機能障害者に、平成 14 年に実施した内容とほぼ同一のものをほぼ同一の対象者に、平成 19 年 2～3 月に発送し、4 月以降に回収し解析を行う。

福岡県内の高次脳機能障害者の新規発症数の調査は、平成 19 年 6 月 1 日から平成 20 年 5 月 31 日までの間に発症した高次脳機能障害の新規発症数を明らかにするため、REAS（リアルタイム評価支援システム、メディア教育開発センター研究開発プロジェクト「国際的通用性の高い先進リソースとその流通方略の研究開発」）を利用して、web 上で登録する前向き研究である。対象者の年齢は 6～69 歳であり、外傷性脳損傷、脳血管障害、低酸素脳症、脳炎後遺症、ウ

エルニック・コルサコフ症候群、その他の疾患で、急性期を脱した段階(2~4カ月後)で高次脳機能障害(研究班の診断基準を満たす)を生じている者とした。

本研究は高次脳機能障害支援ネットワーク確立のための支援が主体であり、原則として個人情報を取り扱わないのでプライバシーが損なわれたり不利益を被ることはない。なお、蜂須賀(産業医科大学)が実施したアンケートやweb登録調査は、大学の倫理委員会で審議され承認を受けた。いずれの調査も氏名、生年月日、住所等の個人を識別できる情報は含まれておらず、個人のプライバシーが損なわれたり不利益を被ることはない。

## C. 研究結果

### 1. 九州ブロックの研究結果

#### 1) 九州ブロック会議

厚生労働省「高次脳機能障害支援ネットワーク」研究班の趣旨に従い、昨年引き続き各県1名、高次脳機能障害のリハビリテーションを中心的に実践しているまたは代表的立場にある医師または専門職種にブロック委員を依頼した。なお、福岡県はブロック委員4名、事務局委員2名とし、全体は14名とした。

福岡県：

- ・北九州市 産業医科大学リハビリテーション医学講座・教授 蜂須賀研二
- ・福岡市 福岡市立心身障がい福祉センター・課長 永吉美砂子
- ・筑後地区 久留米大学脳神経外科・教授 重森稔
- ・その他の県域 福岡県身体障害者リハビ

リテーションセンター・所長 矢野淳

佐賀県：佐賀大学・教授 浅見豊子

長崎県：長崎大学・教授 松坂誠應

熊本県：九州ルーテル大学・教授 中島恵子

大分県：諏訪の杜病院・院長 武居光雄

宮崎県：宮崎大学・教授 帖佐悦男

鹿児島県：鹿児島大学・教授 浜田博文

沖縄県：ちゅうざん病院・院長 今村義典

事務局委員：産業医科大学・講師 岡崎哲也、

産業医科大学病院・高次脳機能障害支援  
コーディネーター 甲斐明子

事務局：産業医科大学リハビリテーション  
医学講座 807-0805 北九州市八幡西区医生  
ヶ丘1-1 Tel 093-691-7266

7月20日 15:10-17:45 福岡県吉塚合同庁舎にて平成19年度第一回高次脳機能障害厚生労働省研究班九州ブロック会議を高次脳機能障害担当者会議(行政)と合同で開催した。委員14名と行政担当者39名が出席し、下記の講演の後、各県の高次脳機能障害支援ネットワークの状況を報告し今後のシステム整備を討議した。

講演1：「高次脳機能障害の地域支援ネットワークの構築」

国立リハビリセンター・学院長 中島八十一

講演2：「高次脳機能障害診断の事例」

産業医科大学・教授 蜂須賀研二

講演3：「社会復帰準備のためのリハ学級」

産業医科大学・講師 岡崎哲也

産業医科大学病院・支援コーディネーター

甲斐明子

第二回九州ブロック会議は平成20年2月2日 11:15-12:45 産業医科大学ラマツイーニホール第2会議室にて委員および関係者18名が出席のもとで開催し、1講演と3

県の取り組み状況が報告され、支援システム整備状況を討議した。

講演：「高次脳機能障害の事例」

産業医科大学・教授 蜂須賀研二

報告1：「佐賀県の取り組み」

佐賀大学・教授 浅見豊子

報告2：「大分県の取り組み」

諏訪の杜病院・院長 武居光雄

報告3：「熊本県の取り組み」

九州ルーテル学院大学・教授

中島恵子

## 2) 高次脳機能障害者の再調査

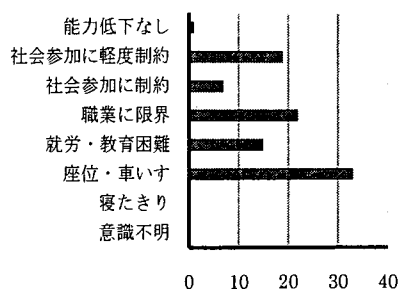
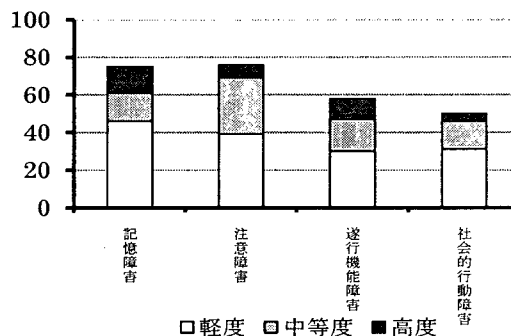
北部九州に在住する高次脳機能障害者359名に対して患者会を通じて質問用紙を郵送し、回答が得られた216名(回収率60%)のうち、外傷性脳損傷の159名の解析を行った。対象者は男性136名、女性23名であり、年齢は $36.0 \pm 14.7$ 歳、受傷時年齢 $28.0 \pm 15.8$ 歳、受傷後経過は $8.0 \pm 6.8$ 年であった。受傷原因は交通事故が126名、意識障害は6時間未満が17名、2週間未満41名、2カ月未満50名、2カ月以上が49名であった。日常生活動作はBarthel Index 100点が147名でほぼ自立していた。高次脳機能障害は準備計画が苦手132名、集中できない128名、覚えられない103名の順番であり、やる気が起こらない、すぐ怒る、仲間ができないも頻度の高い症状であった。前回調査時との相違は、公的障害認定と就職・就学の割合であった。身体障害者手帳がある者は60%(前回、44%)、精神障害者保健福祉手帳がある者は33%(前回、15%)であり、就職・就学中の者は44%(前回、32%)、その他(何もしていない、家事)が

21%(前回、33%)であった。

高次脳機能障害者支援モデル事業および支援事業開始前後で調査した結果で特記すべき点は、公的障害認定を受けている者の割合が増加し、就職・就学の割合が増加している事であり、これらはモデル事業と支援事業の成果と考えられる。

## 3) 福岡県内の高次脳機能障害者新規発症数の調査

調査は途中であるが、平成19年11月1日より平成20年3月15日までの間で63症例、男性49名、女性14名、年齢 $38.5 \pm 18.6$ 歳の登録がなされている。内訳は外傷性脳損傷31%、脳血管障害63%、低酸素脳症1%、脳炎後遺症3%であった。高次脳機能障害の発症頻度は、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害の順序であり、その百分率をグラフに示す。



障害程度は研究班分類に基づき百分率を上  
のグラフに示す。

## 2. 各県の支援活動

1a)福岡県; 福岡県身体障害者リハビリテ  
ーションセンター

(1)ブロック委員会や福岡県が開催する研  
修会・会議等

・福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携  
調整委員会の開催

第1回(平成19年7月20日)

第2回(平成20年2月8日)

ネットワーク会議の開催

第1回(平成19年9月10日)

第2回(平成20年1月11日)

・福岡県高次脳機能障害支援事業研修会の  
開催

i)福祉施設関係者対象:平成19年10月  
11日、春日市 180名参加

ii)医師等医療関係者対象:平成19年10  
月31日、春日市 280名参加

iii)行政関係者対象:平成19年11月2  
日、春日市 180名参加

(2)教育啓蒙活動

・第1回地方支援拠点機関等全国連絡協議  
会への参加 平成19年7月4日、国リハ

・高次脳機能障害支援事業関係機関職員研  
修会への参加 平成19年7月4日~6日、  
国リハ

・高次脳機能障害支援コーディネーター情  
報交換会への参加 平成19年9月29日、  
滋賀

・脳外傷友の会第7回全国大会 2007in しが  
への参加 平成19年9月29日、滋賀

・福岡・高次脳機能障がい者と共に歩む 翼

の会設立記念講演会への参加 平成19年  
12月8日、福岡市

・産業医科大学リハビリテーション講習会  
への参加 平成20年2月2日、北九州市

・第2回地方支援拠点機関等全国連絡協議  
会への参加 平成20年2月29日、東京

(3)支援の実際

福岡県支援拠点機関として以下の支援を  
行った。

・家族支援相談会の開催:毎月1回

・専門相談ホットラインによる相談受付:  
平日の日中(9:15~17:00)

・機能訓練希望者の受け入れ

(内訳)

疾患名 (原因)	性別		平均 年齢	利用形 態	備考
	男	女			
脳挫傷	7	1	41.5 歳	入所6、 通所2	ホットライ ンから7 名
くも膜 下出血	3	2	39.4 歳	入所4、 通所1	ホットライ ンから5 名
一酸化 炭素中 毒	1	0	27.0 歳	入所1	ホットライ ンから1 名
ヘルペ ス脳炎	1	0	57.0 歳	入所1	ホットライ ンから1 名
脳梗塞	1	0	47.0 歳	入所1	
計	13	3	43.2 歳	入所13、 通所3	ホットライ ンから14 名

高次脳機能障害者で、当センターでの訓

練を希望した上記 16 名のうち、(精神障害者保健福祉手帳のみ 1 名、障害者手帳なし 1 名) が入所もしくは通所で機能訓練を受けた。障害者手帳を有していない 1 名は、診断書で障害者自立支援法によるサービスを支給した。

#### (4) その他の活動

福岡県高次脳機能障害支援事業の広報活動として、福岡県高次脳機能障害支援事業リーフレット 9000 部を作成し関係機関に配布し、福岡県高次脳機能障害支援事業を当センターのホームページにて紹介した。

### 1b) 北九州：産業医科大学リハ科

#### (1) 活動状況の概要

高次脳機能障害の診断とリハビリテーション、高次脳機能障害支援コーディネーターが実施した患者・家族からの問い合わせ、受診相談、北九州市行政関係者との連絡調整、障害者職業センター関係者との連絡調整、作業所等関係者との連絡調整、リハビリテーション学級の開催、教育啓蒙活動を実施した。

#### (2) ブロック委員会や福岡県が主催する研修会・会議等

- ・第 1 回 高次脳機能障害厚労科研費研究班九州ブロック会議・第 1 回高次脳機能障害支援担当者会議の開催 平成 19 年 7 月 20 日 参加者 14 名
- ・第 2 回 高次脳機能障害厚労科研費研究班九州ブロック会議の開催 平成 20 年 2 月 2 日 参加者 18 名
- ・第 6 回 産業医科大学病院リハビリテーション講習会の開催 平成 19 年 10 月 18 日 参加者 43 名

・第 7 回 産業医科大学病院リハビリテーション講習会の開催 平成 20 年 2 月 2 日 参加者 100 名

・第 1 回 福岡県高次脳機能障害支援事業ネットワーク会議への参加 平成 19 年 9 月 10 日 臨床心理士 1 名

・第 2 回 福岡県高次脳機能障害支援事業ネットワーク会議への参加 平成 20 年 1 月 11 日 臨床心理士 1 名

・第 1 回 福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会への参加 平成 19 年 7 月 20 日 医師 2 名、臨床心理士 1 名

・第 2 回 福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会への参加 平成 20 年 2 月 8 日 医師 2 名、臨床心理士 1 名

・平成 19 年度 高次脳機能障害支援事業対象者別研修会への参加 平成 19 年 10 月 31 日 臨床心理士 1 名

#### (3) 教育啓発活動

##### i) 蜂須賀研二

・平成 19 年度第 1 回高次脳機能障害厚労科研費研究班九州ブロック会議 平成 19 年 7 月 「高次脳機能障害の診断とリハビリテーション (II)」

・宮崎県精神保健センター医療機関職員研修会 宮崎、平成 19 年 9 月 「高次脳機能障害のリハビリテーション医療」

・第 2 回宮崎県高次脳機能障害支援研修会 宮崎、平成 19 年 10 月 「高次脳機能障害の診断と紛らわしい病態」

・平成 19 年度福岡県高次脳機能障害支援事業研修会、春日、平成 19 年 11 月 「高次脳機能障害の理解～具体的な症状と診断～」

・平成 19 年度第 2 回高次脳機能障害厚労科

研費研究班九州ブロック会議、北九州、平成 20 年 2 月 「高次脳機能障害の事例」

・第 4 回沖縄リハビリテーション研究会高次脳機能障害者支援従事者会議 沖縄、平成 20 年 2 月 「高次脳機能障害の診断方法と診断書の書き方」

・第 6 回大分県高次脳機能障害リハビリテーション講習会 大分、平成 20 年 3 月 「福岡県の高次脳機能障害への取り組み」

ii) 岡崎哲也

・高次脳機能障害支援研修会 佐賀、平成 20 年 1 月 「高次脳機能障害者の支援とリハビリテーション」

・第 4 回沖縄リハビリテーション研究会高次脳機能障害者支援従事者会議 沖縄、平成 20 年 2 月 「高次脳機能障害の支援ネットワーク」

・平成 19 年度第 2 回支援拠点機関等全国連絡協議会および第 2 回厚労科研費「高次脳機能障害支援ネットワークの構築に関する研究」全体会議 東京、2008 年 2 月 公開シンポジウム I 「高次脳機能障害と就労」

iii) 甲斐明子

・第 1 回 高次脳機能障害厚労科研費研究班九州ブロック会議・第 1 回高次脳機能障害支援担当者会議 福岡 平成 19 年 7 月 「社会復帰準備のためのリハビリテーション学級」

・平成 19 年度 高次脳機能障害支援事業対象者別研修会 平成 19 年 10 月 「高次脳機能障害者支援～事例を通して～」

・平成 19 年度 高次脳機能障害支援事業対象者別研修会 平成 19 年 11 月 「高次脳機能障害者支援」

・福岡県作業療法協会 八幡西・遠賀・中

間エリア研修会 平成 19 年 9 月 「高次脳機能障害者支援～産業医科大学病院での取り組み～」

・障害児（者）ホームヘルパースキルアップ研修「専門プログラム」 北九州 平成 19 年 11 月 「高次脳機能障害の理解」

・第 6 回 産業医科大学病院リハビリテーション講習会 北九州 平成 19 年 10 月 「専門病院や行政窓口への紹介方法」

・第 7 回 産業医科大学病院リハビリテーション講習会 北九州 平成 20 年 2 月 「社会復帰準備のためのリハビリテーション学級」

・沖縄県高次脳機能障害支援事業医療従事者研修会 宜野湾 平成 20 年 2 月 「高次脳機能障害者の社会復帰準備のためのリハビリテーション学級」

・北九州市高次脳機能障害支援者研修会 北九州 平成 20 年 2 月 「高次脳機能障害の事例」

・北九州臨床心理研究会 北九州 平成 20 年 3 月 「高次脳機能障害について」

(4) 支援の実際

i) 支援コーディネーター業務

全相談件数 301 件（平成 19 年 4 月～12 月延べ数）、その内新規相談 46 件（実数）。相談内容は、関係者との情報交換 86 件、本人や家族との情報交換や問題の整理 76 件、支援方針などを検討する関係者カンファレンス 27 件（いずれも延べ数）、初診同席・入院時インテーク 29 件（実数）など。

ii) 入院精査件数（平成 19 年 4 月～12 月）24 名

iii) 社会復帰準備のためのリハビリテーション学級の開催



#### a.目的

医療リハ終了後の社会復帰困難（社会的交流の減少、集団行動が苦手、感情のコントロールに不慣れなど）に対して、社会復帰に向けたステップアップ、社会技能の評価と再習得を試みた。

#### b.日程

##### ①平成19年度1学期（計10回）

4月18、25日 5月9、16、23、30日 6月20、27日 7月4、11日

##### ②平成19年度2学期（計10回）

8月22、29日 9月5、12、19日 10月3、10、17、24日 11月7日

##### ③平成19年度第3学期（計10回）

12月12、19日 1月16、23、30日 2月6、20、27日 3月5、12日

#### 1c)久留米市：久留米大学脳神経外科

##### (1)活動状況の概要

新規及び継続した高次脳機能障害者の支援を行い、高次脳機能障害リハビリを試みた。

##### (2)ブロック委員会・福岡県が開催する研修会・会議など

・高次脳機能障害支援事業関係職員研修会への参加 平成19年7月 精神保健福祉士1名・心理士各1名参加

・厚労科研費研究班九州ブロック会議への参加 平成19年7月 医師1名、精神保健福祉士1名

・第1回ネットワーク会議への参加 平成19年9月 精神保健福祉士1名

・平成19年度高次脳機能障害支援事業研修会への参加 平成19年10月、10月、11月 精神保健福祉士1名

・第2回ネットワーク会議への参加 平成20年1月 精神保健福祉士1名

・第2回厚労科研費研究班九州ブロック会議への参加 平成20年2月 精神神経科講師1名

・第2回福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会への参加 平成20年2月 精神神経科講師1名・精神保健福祉士1名

##### (3)支援の実際

平成19年12月末相談者数は新規実人数36名、相談件数54件（一人に対し複数の相談あり）相談者の平均年齢43.5歳。（新規・継続延べ人数：111名、相談件数160件、平均年齢44.8歳）

相談内容は、評価・診断目的が一番多く22件、次いで訓練について11件、就業・就学6件、その他関係機関紹介・福祉制度紹介などについて10件であった。

##### (4)その他の活動

・啓蒙活動として関係機関へのリーフレット配布及び研修会共同参加をした。

#### 1d)福岡市：福岡市立心身障がい福祉センター

##### (1)ブロック委員会・福岡県が開催する研修会・会議など

・第1回福岡県高次脳機能障害相談支援体制連絡調整委員会への参加 平成19年7月

・第1回福岡県高次脳機能障害支援ネットワーク会議への参加 平成19年9月

・第2回福岡県高次脳機能障害支援事業ネットワーク会議への参加 平成20年1月

・第2回高次脳機能障害厚労科研費研究班九州ブロック会議への参加 平成20年2月

・第2回福岡県高次脳機能障害相談支援体

制連携調査委員会への参加 平成20年2月

## (2)教育啓蒙活動

・高次脳機能障害支援事業対象者別研修会  
平成19年10月 永吉美砂子「高次脳機能障害の理解」、内田恵「支援機関からの報告」

・福岡県高次脳機能障害支援事業研修会への参加 平成19年10月

・高次脳機能障害支援事業対象者別研修会  
平成19年11月 和田明美「支援機関からの報告」

・第4回高次脳機能障害者支援のためのワークショップ 平成20年3月 和田明美「社会的行動障害へのアプローチ―事例を通して」

・北九州市高次脳機能障害支援者研修会  
永吉美砂子「高次脳機能障害の理解と支援」

・「福岡・高次脳機能障がい者と歩む 翼の会」設立記念講演会への参加 平成19年12月

・第7回産業医科大学病院リハビリテーション講習会への参加 平成20年2月

## (3)福岡市主催の教育啓蒙活動

・障害者自立支援法に関わるホームヘルパー研修 平成19年8月 参加48名 永吉美砂子「高次脳機能障害の理解」、和田明美「具体的な対応について」

・福岡市高次脳機能障がい者支援者研修 平成19年11月 参加29名 永吉美砂子、和田明美、内田恵「高次脳機能障がいについて」

・福岡市保護課職員研修 平成19年12月 参加51名 永吉美砂子「高次脳機能障がいについて」

## (4)支援の実際

i)相談 (H19年4月～H19年12月末)

新規相談 68件 (電話63件、来所5件)

継続相談・連絡調整 92件 (電話・メール66件、面接12件、訪問14件)

ii)就労定着支援(就労グループ)

復職者のグループ懇談会開催

・第1回 平成19年9月29日 7名参加

・第2回 平成20年1月19日 5名参加

## 2)佐賀県

### (1)活動状況の概要

・佐賀県の新規事業として「高次脳機能障害支援普及事業」がスタートした。内容としては国の実施要綱に基づき、支援拠点病院が「佐賀大学医学部附属病院」に指定された。

・各関係機関の担当者、家族の会等で構成する「高次脳機能障害相談支援体制整備準備会」を立ち上げ、次年度には「高次脳機能障害の相談支援体制整備推進会議」を開催予定としている。

・高次脳機能障害の正しい理解を促進するための普及・啓発事業、高次脳機能障害支援手法等に関する研修を開催した。

(2)ブロック委員会や佐賀県が開催する研修会・会議など

### i)会議開催

・第1回高次脳機能障害相談支援体制整備準備委員会:平成19年12月10日 佐賀県庁

参加者:佐賀大学、佐賀県医師会、佐賀精神科病院協会、理学療法士会、作業療法士会、MSW協会、障害者職業センター、高次脳機能障害「ぷらむ」佐賀(家族会)、学校教育課、就労支援室、精神保健福祉センター、佐賀県庁健康増進課、18名

・第2回高次脳機能障害相談支援体制整備準備委員会 平成20年3月 佐賀県庁  
参加者：佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医師会、佐賀精神科病院協会、佐賀県理学療法士会、佐賀県作業療法士会、MSW協会、佐賀県障害者職業センター、「ぷらむ」佐賀、「ぷらむ」高次脳機能障害連絡協議会、学校教育課、就労支援室、精神保健福祉センター、佐賀県庁健康増進課

ii) 会議参加

・平成19年度厚労科研費研究班第2回九州ブロック会議への参加 リハビリテーション科医師2名、MSW1名、平成20年2月2日

・第7回産業医科大学リハビリテーション講習会への参加 リハビリテーション科医師2名、MSW1名、平成20年2月2日

・平成19年度第2回地方支援拠点機関等全国連絡協議会、第2回厚労科研費「地域支援ネットワークの構築に関する研究」全体会議への参加 リハビリテーション科医師1名、平成20年2月

(3) 教育啓発活動

・第1回高次脳機能障害研修会の開催 平成20年1月10日 佐賀大学

参加者：佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医師会、佐賀精神科病院協会、佐賀県理学療法士会、佐賀県作業療法士会、MSW協会、佐賀県障害者職業センター、「ぷらむ」佐賀、「ぷらむ」高次脳機能障害連絡協議会、学校教育課、就労支援室、精神保健福祉センター、佐賀県庁健康増進課 160名

「高次脳機能障害の支援とリハビリテーション」産業医科大学リハビリテーション医学講座 岡崎哲也先生

座長：岩瀬課長、浅見豊子

共催：佐賀県健康福祉本部健康増進課、佐賀大学

・第2回高次脳機能障害支援研修会の開催 平成20年2月5日 佐賀社会保険病院

参加者：佐賀大学、佐賀県医師会、佐賀精神科病院協会、理学療法士会、作業療法士会、MSW協会、障害者職業センター、高次脳機能障害「ぷらむ」佐賀（家族会）、学校教育課、就労支援室、精神保健福祉センター、佐賀県庁健康増進課、150名

内容：「もやもや病と知能障害」佐賀大学医学部 脳神経外科 松島俊夫

「高次脳機能障害に対する県の取り組み」佐賀県健康福祉本部健康増進課 田崎直美  
座長：岩瀬課長、浅見豊子

共催：佐賀県健康福祉本部健康増進課佐賀中部地域リハビリテーション支援センター  
(4) 支援の実際

支援コーディネーターを配置し、8名の相談を受けた。

(5) その他の活動

県内の関係医医療機関100箇所へ高次脳機能障害支援に関するアンケート調査を実施した。回答があったのは66医療機関で受け入れ経験のある医療機関は40、受け入れ可能とした医療機関は38であった。項目毎の対応可能な医療機関数は、急性期治療15、診断・評価16、リハビリ訓練30、維持的通院22、維持的入院24であった。

3) 長崎県

(1) 活動状況の概要

高次脳機能障害者支援窓口を整備し関係者間ネットワークづくりを行い、高次脳機能障害に

関する啓発事業を実施した。

(2) ブロック委員会や長崎県が開催する研修会・会議等

i) 主催

・ 高次脳機能障害支援センター開所ミニフォーラム 参加者 74 平成 19 年 7 月 2 日

・ 長崎県高次脳機能障害支援シンポジウム 参加者 250 名、平成 20 年 2 月 17 日

ii) 参加

・ 九州各県高次脳支援担当者及び九州ブロック会議への参加 平成 19 年 7 月 20 日

・ 第 1 回長崎県高次脳機能障害連絡協議会への参加 平成 19 年 8 月 28 日

・ 第 1 回佐世保圏域広域リハ推進協議会への参加 平成 19 年 9 月 7 日

・ 第 1 回長崎県地域リハビリテーション協議会への参加 平成 19 年 10 月 3 日

・ 県南保健所県南地域リハビリテーション推進部会への参加 平成 19 年 11 月 29 日

・ 西彼保健所地域精神保健医療福祉協議会への参加 平成 19 年 12 月 21 日

・ 上五島保健所精神保健医療福祉協議会への参加 平成 20 年 2 月 8 日

(3) 教育啓発活動

・ 島原市にて「コミュニケーション障害」について講演 平成 19 年 9 月 30 日

・ 長崎県医師会生涯教育講座 平成 20 年 1 月 20 日「高次脳機能障害の診断とリハビリテーション」について講演

・ 産業医科大学リハビリテーション講習会 平成 20 年 2 月 3 日 「長崎における高次脳機能障害の実態調査」について講演

・ 諫早市にて「高次脳機能障害とその支援」の講演 平成 20 年 2 月 17 日

(4) 支援の実際

高次脳機能障害支援センターにて支援コーディネーターが 113 件の相談、家族会への支援 5 回を実施した。

5. その他の活動

リーフレット 3,000 部を配布した。

4) 熊本県

(1) 活動状況の概要

熊本県高次脳機能障害検討委員会は熊本県医師会に属し、委員は 22 名で構成している。

脳神経外科医 4 名、精神科医 4 名、リハビリテーション医 3 名、神経内科医 1 名、外科医 1 名、内科医 1 名、整形外科医 1 名、看護 1 名、理学療法 1 名、作業療法 1 名、言語療法 1 名、心理療法 1 名、福祉 1 名、県行政職 1 名。

年に 5 回定例の委員会を開催し、年 2 回委員会主催の講演会を開催した。各診療科主催の研修会、各療法士会主催の研修会を開催した。

(2) 開催した研修会、講演会、会議

・ 熊本県高次脳機能障害検討委員会主催講演会「高次脳機能障害者の生活支援を考える」参加者 620 名 平成 19 年 11 月 14 日

・ 熊本県看護協会主催講演会 「高次脳機能障害の理解と対応」 参加者 150 名 平成 19 年 11 月 18 日

・ 熊本県市町村保健師協議会主催講演会「高次脳機能障害の理解と対応」 参加者 120 名 平成 19 年 6 月 2 日

・ 熊本県神経心理研究会主催講演会 「神経心理学の基礎」 参加者 180 名 平成 19 年 8 月 22 日

(3) 教育啓発活動 (中島恵子・講師として

15回)

・平成19年度国立身体障害者リハビリテーション学院リハ心理職研修会「神経心理学的検査と認知リハビリテーション」平成19年9月7日、参加者25名

・熊本県看護協会主催講演会「高次脳機能障害の理解と対応」平成19年11月18日、参加者150名

・大分県地域支援研修会「認知リハビリテーション」平成19年7月11日、参加者180名

・奈良脳外傷友の会あすか主催講演会(損保協会)「高次脳機能障害への家族の対応」平成19年11月9日、参加者200名

・東京都病院経営本部主催講演会「注意障害の神経心理学的リハビリテーション」平成19年12月21日、参加者110名

#### (4) 支援の実際

熊本県高次脳機能障害総合窓口を熊本県精神保健福祉センターに設置し、相談件数25名であった。

#### 5) 大分県

##### (1) 活動状況の概要

高次脳機能障害の診断・治療(リハビリテーション)実施、啓発教育活動、研修会講習会開催、各病院・施設・当事者・家族等からの相談支援、社会復帰準備のための作業所開設、等を行なった。

##### (2) 研修会、講習会、会議等の開催

・大分県高次脳機能障害連絡協議会総会及び特別講演の開催 平成19年4月21日参加者120名 大分県福祉保健部障害福祉課参事白川泰之「障害自立支援法制度の概要とその活用」

・第5回高次脳機能障害リハビリテーション講習会 平成19年9月9日 参加者269名

「家族から見た作業所の就労支援」コロポックル代表 中野匡子先生、「家族会の役割と相談会」コロポックル代表 篠原節先生、「ミニコンサート」ダブルけんご、「高次脳機能障害に対するリハビリテーション医の見方」-私が学んだ高次脳機能障害をもつ方々-首都大学東京教授 渡邊修先生

・第6回高次脳機能障害リハビリテーション講習会 平成20年3月16日「福岡県の高次脳機能障害への取り組み」産業医科大学医学部リハビリ医学 蜂須賀研二先生、「ミニコンサート」：ダブルけんご

##### (3) 教育啓発活動

①大分市医師会学術集会特別講演 ②大分大学医学部Ⅱ期生研修会特別講演 ③大分市東地区ブレインアタックネットワーク特別講演 ④大分県障害者職業センター職員研修会特別講演 ⑤日田・玖珠地域保健所研修会特別講演 ⑥(市中)病院院内研修会特別講演 ⑦大分県病院学会シンポジウム シンポジスト ⑧大分地域包括支援センター東部ブロック研修会特別講演 ⑨第30回宮崎リハビリテーション研究会特別講演 ⑩平松学園大分リハビリテーション専門学校理学療法士科特別授業 ⑪九州保健福祉大学作業療法学科特別授業 ⑫大分高校特別授業 ⑬大分市地域リハビリテーション広域支援センター実行委員会報告会 ⑭家族会に対する支援拠点機関の紹介と今後

## の取り組み報告会

### (4) 支援の実際

・各関係機関への訪問説明：各行政機関 10 件、保健所 14 件、医療機関（急性期病院 27 件、その他病院 10 件）、施設等 7 件：合計 68 件

・相談会（当事者、家族）の開催

平成 19 年 5 月 27 日、参加者：7 名

・支援コーディネイター

個別相談：電話相談 68 件、来院相談 8 件、訪問相談 1 件：合計 77 件

・会報の発行

会報誌「ぶんご梅」第 4 号発行 平成 19 年 9 月

・地域福祉作業所「工房 きらら」開所

・一般県民向け啓発パンフレット（約 3000 部）及びポスター（約 500 枚）作成し配布

・発症実態調査及び家族ニーズ調査

・大分県高次脳機能障害者支援連携調整委員会開催

### 6) 宮崎県

#### (1) 状況の概要

県が主体となって、県内の関係する医療機関、福祉施設及び市町村に対し、高次脳機能障害者の実態調査を実施し、21 年度を目標に、支援拠点機関の設置及び支援ネットワークを構築・整備する計画を策定した。

(2) ブロック委員会や宮崎県が開催する研修会・会議等

#### i) 主催

・第 1 回高次脳機能障害支援ネットワーク研修会 平成 19 年 2 月 7 日 参加者 141

・第 2 回高次脳機能障害支援ネットワーク研修会 平成 19 年 10 月 22 日 参加者 202 人

・高次脳機能障害研修会 平成 20 年 2 月 3 日

・宮崎県高次脳機能障がい者支援検討会議の設置

#### (3) 教育啓発活動

高次脳機能障害支援ネットワーク研修会開催およびアンケートを実施した。

#### (4) 支援の実際

なし

#### (5) その他の活動

県との小委員会・連絡協議会を開催し、医療機関及び福祉施設に対し、高次脳機能障害者への意識・実態調査を実施した。

### 7) 鹿児島県

#### (1) 研修会等の開催および参加

・第 7 回鹿児島「高次脳機能障害」研修会－在宅生活の QOL と福祉の向上を考える－鹿児島、参加者 217 名

特別講演 1「高次脳機能障害者の支援：医療から福祉へ連続したケア」中島 八十一（国立身体障害者リハビリテーション学院 学院長）

特別講演 2「日本脳外傷友の会の活動－各地の活動の現況と課題－」東川悦子（日本脳外傷友の会 理事長）

シンポジウム：「高次脳機能障害者の在宅生活の QOL と福祉」シンポジスト：5 名

・当事者団体「ぶらむ」鹿児島の総会に参加 委員の参加 3 名 平成 19 年 4 月 21 日 鹿児島

・当事者団体「ぶらむ」鹿児島 設立 3 周

年記念講演会に参加 委員の参加 5 名 平成 19 年 10 月 21 日 鹿児島

## (2) 支援の実際

・当事者団体「ぷらむ」鹿児島との個別相談会の開催

第 1 回 : 平成 19 年 4 月 26 日

相談件数 6 件

第 2 回 : 平成 20 年 2 月 23 日

相談件数 7 件

・当事者団体「ぷらむ」鹿児島からボランティアの要請があり、ボランティアグループを紹介した。

・「相談窓口」担当者サポート事業の開設  
本サポート事業は、市町村・保健所の「相談窓口」担当者の専門的相談に対応するものである。

## (3) 行政施策への貢献

ネットワーク整備の観点から、本委員会の委員として、行政からも 5 名が参加して、他の委員と同じ活動を行っている。

## 8) 鹿児島県

### (1) 状況の概要

支援拠点機関を 2 施設（沖縄リハビリテーションセンター病院、平安病院）指定した。拠点機関による「障害者の就労」について公開講座を開催し、その後、講演会を数回実施した。

### (2) 研修会の開催および参加

・第 8 回沖縄県リハビリテーション医学会・協会研修会において沖縄県高次脳機能障害者支援事業医療従事者研修会を開催  
宜野湾 平成 20 年 2 月 10 日 120 名参加

『高次脳機能障害の診断とリハビリテーション』: 産業医科大学 蜂須賀研二、岡

崎哲也講師、甲斐明子コーディネーター  
・厚労科研費研究班九州ブロック会議出席

## D. 健康危険情報

### E. 研究発表

1. 論文発表  
一覧表に記載
2. 学会発表  
一覧表に記載

### F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他

雑誌

著者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Doi R, Morita K, Shigemori M, Tokutomi T, Maeda H.	Characteristics of cognitive function in patients after traumatic brain injury assessed by visual and auditory event-related potentials.	Am J Phys Med Rehabil.	Aug;86(8)	641-9	2007
兒玉隆之、森田喜一郎、土井 亮	色彩環境が高次脳機能障害者の情動へ及ぼす影響について—LORETAによる検討—	脳と精神の医学	18(1)	55-60	2007
中島恵子	遂行機能障害への神経心理学的リハビリテーション	熊本県精神科病院会誌	NO.74	84-95	
永吉美砂子	社会的行動障害と生活.	精神認知とOT	3(5)	376-380	2006
永吉美砂子	高次脳機能障害.	達人ケアマネ	2(3)	60-69	2008
武居光雄	高次脳機能障害のリハビリテーション	大分大学医学部二期生研究会誌			2008.3.22 出版予定

研修会

対象地区	研修会名	主催	場所	日程	参加人数
北九州市	第1回高次脳機能障害厚労科研費研究班九州ブロック会議・第1回高次脳機能障害支援担当者会議	産業医科大学	福岡県吉塚合同庁舎	2007.7.20	14
北九州市	第2回高次脳機能障害厚労科研費研究班九州ブロック会議	産業医科大学	産業医科大学 ラマツイーニホール	2008.2.2	18



北九州市	第6回産業医科大学リハビリテーション講習会	産業医科大学	北九州市立男女共同参画センター・ムーブ	2007.10.8	43
北九州市	第7回産業医科大学リハビリテーション講習会	産業医科大学	産業医科大学 ラマツイーニホール	2008.2.2	100
福岡市	障害者自立支援法に関わるホームヘルパー研修	福岡市		2007.8.2	48
福岡市	福岡市高次脳機能障がい者支援者研修	福岡市		2007.11.9	29
福岡市	福岡市保護課職員研修	福岡市		2007.12.10	51
福岡県	第1回福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会	福岡県身体障害者 リハビリテーションセンター		2007.7.20	
福岡県	第2回福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会	福岡県身体障害者 リハビリテーションセンター		2008.2.8	
福岡県	第1回ネットワーク会議	福岡県身体障害者 リハビリテーションセンター		2007.9.10	
福岡県	第2回ネットワーク会議	福岡県身体障害者 リハビリテーションセンター		2008.1.11	
福岡県	高次脳機能障害支援事業研修会(福祉施設関係者対象)	福岡県身体障害者 リハビリテーションセンター	春日市	2007.10.11	135
福岡県	高次脳機能障害支援事業研修会(医師等医療関係者対象)	福岡県身体障害者 リハビリテーションセンター	春日市	2007.10.31	270
福岡県	高次脳機能障害支援事業研修会(行政関係者対象)	福岡県身体障害者 リハビリテーションセンター	春日市	2007.11.2	140
佐賀県	第1回高次脳機能障害相談支援体制整備準備委員会	佐賀大学	佐賀県庁	2007.12.10	18

佐賀県	第2回高次脳機能障害相談支援体制整備準備委員会(予定)	佐賀大学	佐賀県庁	2008.3.17	20
佐賀県	第1回高次脳機能障害研修会		佐賀大学	2008.1.10	160
佐賀県	第2回高次脳機能障害支援研修会		佐賀社会保険病院	2008.2.5	150
長崎県	高次脳機能障害支援センター開所ミニフォーラム	長崎大学		2007.7.2	74
長崎県	長崎県高次脳機能障害支援シンポジウム	長崎大学		2008.2.17	240
熊本県	熊本県高次脳機能障害検討委員会主催講演会	九州ルーテル学院大学		2007.11.14	620
熊本県	熊本県看護協会主催講演会	熊本県看護協会		2007.11.18	150
熊本県	熊本県市町村保健師協議会主催講演会	熊本県市町村保健師協議会		2007.6.2	120
熊本県	熊本県神経心理研究会主催講演会	熊本県神経心理研究会		2007.8.22	180
大分県	大分県高次脳機能障害連絡協議会総会及び特別講演	諏訪の杜病院		2007.4.21	120
大分県	第5回高次脳機能障害リハビリテーション講習会	諏訪の杜病院		2007.9.9	269
大分県	第6回高次脳機能障害リハビリテーション講習会	諏訪の杜病院		2008.3.16	271
宮崎県	第1回高次脳機能障害支援ネットワーク研修会	宮崎大学医学部・宮崎県身体障害者相談センター		2007.2.7	141
宮崎県	第2回高次脳機能障害支援ネットワーク研修会	宮崎大学医学部・宮崎県身体障害者相談センター		2007.10.22	202
宮崎県	高次脳機能障害のリハビリテーション	宮崎大学医学部		2008.2.3	45
宮崎県	宮崎県高次脳機能障がい者支援検討会議(仮称)	宮崎県		2008.3.予定	10
鹿児島大学	第7回鹿児島「高次脳機能障害」研修会(日本損害保険協会)	鹿児島大学	鹿児島大学医学部構内 鶴		217

	助成)		陵会館 大ホール		
沖縄県	沖縄県高次脳機能障害者支援事業医療従事者研修会	ちゅうざん病院	沖縄コンベンションセンター		120
沖縄県	第7回 中部県リハビリ祭典 沖縄県高次脳機能障害支援普及事業公開講座	沖縄リハビリテーション病院	沖縄リハビリテーションセンター病院 2階	2007.12.1	241
沖縄県	沖縄県リハビリテーション医学会・協会研修会 沖縄県高次脳機能障害支援普及事業医療従事者研修会	沖縄リハビリテーション病院	コンベンションセンター(宜野湾市)	2008.2.10	111
沖縄県	沖縄県高次脳機能障害支援普及事業研修会	沖縄リハビリテーション病院	ジュビランス(宜野湾市)	2008.2.24	185

学会発表・講演

演者名	タイトル	学会名	日時	場所
土井 亮、竹内靖治、徳富孝志、森田喜一郎、渡辺レイ子、重森 稔	外傷性脳損傷後の高次脳機能障害評価における神経心理学的検査と事象関連電位の役割.	第16回日本意識障害学会	2007.8.5-6	仙台
宮城知也、塩見直人、刈茅 崇、徳富孝志、重森 稔、坂本照夫	スポーツによる重症外傷例の検討.	第26回福岡救急医学会	2007.9.8	久留米
Shigemori M, Tokutomi T, Doi R, Morita K, Watanabe R	: Higher brain dysfunction after traumatic brain injury (TBI).	2nd Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery	2007.9.13-16	台北
Tokutomi T, Miyagi T, Shiomi N, Doi R, Shigemori M	: Cognitive and behavioral recovery after traumatic brain injury.	2nd Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery	2007.9.13-16	台北

Doi R, Morita K, Inoue M, Abe T, Tokutomi T, Shigemori M	: Characteristics of cognitive function in patients after traumatic brain injury assessed by visual event-related potentials and functional magnetic resonance imaging.	2nd Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery	2007.9.13-16	台北
Shigemori M	: Lesson learned from neurotrauma projects.	International Conference on Recent Advances in Neurotraumatology 2007	2007.9.19-22	天津
塩見直人、宮城知也、刈茅 崇、徳富孝志、重森 稔	: びまん性(広範性)脳損傷の転帰要因.	第 66 回日本脳神経外科学会総会	2007.10.3-5	東京
土井 亮、徳富孝志、森田喜一郎、渡部レイ子、重森 稔	: 外傷性脳損傷後の高次脳機能障害評価における神経心理学的検査と事象関連電位の役割.	第 66 回日本脳神経外科学会総会	2007.10.3-5	東京
前田 剛、徳富孝志、富田博樹、川又達朗、重森 稔、片山容一	: 頭部外傷による高次脳機能障害; 2年間の追跡調査による132例の検討.	第 66 回日本脳神経外科学会総会	2007.10.3-5	東京
塩見直人、宮城知也、刈茅 崇、坂本照夫	: 重症頭部外傷における初期診療の重要性—初期診療が転帰に与える影響について—.	第 35 回日本救急医学会総会	2007.10.16-18	大阪
重森 稔	我が国での神経外傷関連プロジェクトの概要とICU管理の現状。(特別講演)	第 20 回救命救急センター勉強会	2007.8.17	名古屋
重森 稔	脳外傷急性期の治療管理の現状と高次脳機能障害。(特別講演)	第6回音楽運動療法研究会	2007.11.11	大阪